

新潟県立図書館所蔵の往来物資料 —目的別分類の観点から—

Investigation report on "OURAIMONO" documents of Niigata Prefectural Library possession: A study based on the purposeful classification analysis

郡 千寿子*
Chizuko KOHRI*

要 旨

新潟県立図書館に所蔵されている近世期版本の往来物資料について、調査した概要をここに報告する。『新潟県立新潟図書館所蔵郷土資料解説目録（和装書の部）』および『新潟県立図書館旧館分類図書分類目録19 和装書』『新潟県立図書館所蔵和装書目録（郷土資料を除く）』を参考に調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。それらの該当資料について調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

総数では、72本の近世期版本の往来物資料が確認された。それらを目的別に分類した結果、教訓科往来9本、社会科往来は所蔵なし、語彙科往来5本、消息科往来16本、地理科往来1本、歴史科往来5本、産業科往来11本、理数科往来18本、女子用往来7本という内訳となった。

新潟地域においては、すでに新潟長岡の所在往来物資料についての調査結果を公表している。往来物の分布を通して、地域の教育的背景の格差や文化伝播状況などを解明することを目的としているが、本稿は、北陸や東北の他地域の状況と比較する上でも基盤となる調査の一報である。

キーワード：新潟、往来物、言語生活、地域文化、教育背景

1. 研究の背景について

近世期以降に出版された往来物資料を通して、実生活にどのようにそれらの文献資料が関わっていたのかの具体像を探ることを目的に研究¹⁾をすすめている。往来物は、寺子屋などで手習いのために使用された教科書の類の総称であるが、近世期には様々な種類のものが出版された。従来の往来物研究は、教育史資料という側面からなされてきたが、日本社会の近代化や人間文化形成に果たした役割や影響など、多くの未開拓課題が存在し、新たな視点からの活用が期待されている。

しかし、文献資料の基礎的研究をはじめとして、発掘も十分にすすんでいない現状にあり、そうした事情を背景に、東北地域の往来物資料についての調査研究²⁾をすすめてきた。現在、東北地域と海域でつながり、近世期に関西とも文化交流など関係が深かった

と予測される、北陸地域にも調査対象³⁾を拡げている。地域間格差や文化伝播事情など研究の進展を目指し、新潟地域における、長岡の調査報告⁴⁾に加えて、新たに本稿では、新潟県立図書館所蔵の資料について報告する。

2. 調査方法

東北地域における所蔵往来物の調査にならい、原則として、写本は除き、版本に限って成立時期や出版元を確認した。調査対象の資料それぞれについて、目的別と出版地別に分類整理⁵⁾して、地域ごとの特徴について今後考察検討したいと思うが、写本を除いたのには意味がある。本研究の大きな目的のひとつは、地方における近世期の庶民生活について、出版文化を通して考えてみることである。写本は、その資料の内容を知るには重要な資料であるが、どこでどのような

*弘前大学教育学部国語教育講座

Department of Japanese Language and Literature, Faculty of Education, Hirosaki University

文献が出版され、それがどのような場所で使われてきたか、文化や教育の流通状況⁶⁾を解明するためには、版本の方がより大きな資料的価値をもつと考えたからである。

基本的には、従来の調査手法を踏襲し、調査対象の往来物資料を厳選し、分類整理を試みた。文献資料の所在や記載内容については、『国書総目録』⁷⁾および『古典籍総合目録』⁸⁾によっても確認した。

3. 調査結果と資料紹介

『新潟県立新潟図書館所蔵郷土資料解説目録（和装書の部）』および『新潟県立図書館旧館分類図書分類目録19 和装書』『新潟県立図書館所蔵和装書目録（郷土資料を除く）』⁹⁾を参考にし、調査対象に該当すると思われる近世期の往来物資料を選別した。それらの該当資料について調査を実施し、考察検討のうえ分類整理した。

総数では、72本の近世期版本の往来物資料が確認された。目的別に分類整理したところ、教訓科往来9本、社会科往来は所蔵がなく、語彙科往来5本、消息科往来16本、地理科往来1本、歴史科往来5本、産業科往来11本、理科科往来18本、女子用往来7本という結果であった。

出版地域別の分類では、江戸が37本で最も多く、京都7本、大坂14本、名古屋1本、不明が13本という結果であった。本稿では、目的別分類の観点から、特徴的な資料を紹介しつつ、調査結果を報告する。資料名の後の（ ）内には、出版地域と刊行年が特定できたものについて補足提示した。

①教訓科往来

『六諭衍義大意』（1656年京都）、『小笠原諸礼大全上下』（1806年大坂）、『孝行往来』（1835年大坂）、『実語教童子教』（1868年江戸）（1816年江戸）、『改正新刻実語教童子教』（1861年京都）、『絵入二十四孝抄』（京都）、『謹身往来』（1805年江戸）、『世話字往来教草』（江戸）の9本であった。

『謹身往来』（資料番号277/甲43）は、表紙は薄紺色、横18.0cm 縦25.8cmで、全37丁の資料である。表紙裏に手書きで「謹身往来」「大野用 大野」と所有者が記したと思われる書き入れが確認できる。裏表紙は「濃紺」で「大野」との所有者名が記載されている。表表紙も裏表紙もはがれており、使用者の住所「越後新発田」が確認できる。一丁表には、書名の「謹身往来」「きんしんわうらい」と振り仮名がある。裏表

紙裏に「寛政二 庚申年春開板 文化二乙丑年春求板」「吉田其幸著」「江戸書肆 馬喰町二丁目 町西村屋与八板」「須原屋茂兵衛 町西村源六 原版」「発起 平口屋口治郎」とあり、江戸の出版とした。『謹身往来』は、主に江戸町人のために日常語や生活心得全般を綴った教訓科往来物である。

『孝行往来』（資料番号277/甲11）は、表紙は薄茶色（ベージュ）で、横15.5cm 縦22.0cm、全37丁（角書丁数あり）の資料である。表紙裏～1丁表に趣旨説明があり、「天保六 西川義暢題」と成立年の記載がある。2丁表～3丁裏までは絵と文章がみられ、4丁表に内題「孝行往来」、振り仮名「かうかうわうらい」とある。裏表紙裏に「発行書肆」が10軒記載されている。江戸は8軒で、「江戸日本橋南壱丁目 須原屋茂兵衛」「同二丁目 山城屋佐兵衛」ほか6軒。「尾州名古屋本町三丁目 菱屋藤兵衛」と名古屋の書肆もみられるが、「大坂心齋橋北 河内屋源八郎板」とあり、版元は「河内屋」と認められる。『孝行往来』は、主に「孝経」によりながら孝行のあらましを論じた、教訓科往来物である。

②社会科往来

社会科往来に分類できる資料は見当たらなかった。

③語彙科往来

『一騎歌尽』（1863年江戸）、『五体名頭字七ついろは』（京都）、『諸家学要世話万字文』（1835年大坂）、『大統歌 上下』（1859年江戸）、『両点千字文』の5本であった。

『五体名頭字七ついろは』（資料番号277/甲16）は、表紙が薄茶色（ベージュ）で題箋はなく、縦17.7cm 横11.7cmの全6丁の資料である。表紙裏に題名が、中央部分二行分ち書きで「五躰名頭字」「七ツいろは」とある。「京都 山静堂 鶴栄堂 合梓」とあり、京都の出版であることが知られる。裏表紙裏に「世話千字文」「用文集」「江戸往来」等の書物の宣伝紹介が列挙され、「京都書物問屋 山崎屋清七 鶴屋喜右エ門」と記載が確認できる。児童向けの語彙学習のための教科書的なもので、いろは順で語彙の用例が示されている。

④消息科往来

消息科往来は、最も多く所在が確認できるもので16本が確認された。『永福用文章』（1860年江戸）、『雅俗要文再刻』（1841年江戸）、『書翰初学抄 上中下』

(1684年京都)、『校正新板庭訓往来』(1843年大坂)、『天保改正庭訓往来』(江戸)、『庭訓往来』(1770年大坂)、『風月往来』(大坂)、『消息文例 上下』(1805年大坂)等である。

『校正新板庭訓往来』(資料番号277/甲24)は、表紙が薄茶色(ページユ)で、横17.8cm 縦25.1cm、全51丁の資料である。表紙裏に「御家流 観明堂筆 校正新板庭訓往来 平仮名付 浪速書林 栄寿堂 宋栄堂 合梓」とある。1丁表は「庭訓往来」「ていきんわうらい」で始まっている。裏表紙裏に「天保十四年癸卯」「書肆」として7軒列挙されている。「江戸日本橋通壱丁目 須原屋茂兵衛」ほか4軒の5軒、「大坂心齋橋久宝寺町 堺屋新兵衛」「同 安堂寺町心齋橋 播磨屋理助板」の2軒である。版元は「播磨屋」と認めて出版地は大坂とした。

『庭訓往来』は、中世から明治初年に至るまで最も普及した消息科に分類される往来物のひとつであり、本書は「校正新板」の類書であるが、「天保改正」のものも確認した。『天保改正庭訓往来』(資料番号277/甲24)は、横17.8cm 縦25.6cm、表紙が薄紺色の全50丁の資料である。裏表紙裏に「東都書林 江戸日本橋通三丁目 藤岡屋彦太郎板」とあり、江戸の出版と分類した。

また興味深い資料として『永福用文章』(資料番号277/甲4)を紹介したい。表紙は後付けで白色だが、題箋はない。縦12.0cm 横8.0cm、全115丁の資料である。

『国書総目録』⁷⁾によれば、『永福用文章』一冊は、著者「十返舎一九」で「万延1年」(1860年)のものとしてされている。表紙裏に「永福用文章」と中央にあり、「東都書林 馬喰町式丁目 菊屋幸三郎板」と記載がある。目録部分が6丁、本文99丁で全115丁。1丁～3丁目には、古今集や拾遺集の和歌、白居易の漢詩等、著名文が列挙され紹介されている。4～6丁目は目録が示され、例えば「一年頭披露状 初丁 同返事」「一年始状 三丁 同返事」「一 寒中見舞文 一八丁 同返事」「一 婚礼悦之文 三十一丁 同返事」「一 仲人挨拶状 三十三丁 同返事」「一 餞別之手紙 四十四丁 同返事」等と日常必要な挨拶文章の心得や文例の書物であることが知られる。

99丁裏部分に「十返舎一九撰」とあり、「享和二」から「文化二」「同十二」「嘉永二」と版を重ね、「萬延元庚申年9月補刻」「佐渡掬泉業粟並書」とある。111丁～最終5丁分には、「東都書林 馬喰町二丁目 金幸堂菊屋幸三郎略目録」として多数の書物が列挙され宣伝されている。「四書集註 十巻」「中庸解」と

いった漢籍、「両街道名所独案内」「日光道中早見」といった案内記、「萬国地球図」「天文便覧」や地図の類、「遠州流挿花意匠」「活花秘傳図式」といった花道作法等、多くの領域の書物の刊行を手掛けていることが知られる。

また最終頁(115丁)には、薬の広告が記載されている。「快気散」「永福丸」の宣伝で、現在の広告掲載に通じるものといえる。「快気散 一回六百五十文 半包五十文 足の厥陰 肝経と手の少陽三焦^{めぐ}に行^る気分の薬よく(中略)故に婦人の聖薬にして産前産後かならず用ふへし」「○気の鬱をひらく」「○胸中の熱たんを治す」「○眩暈^{めまい}たちくらみによし」「○血の道諸病によし」等の効能が列挙され、最後は「江戸馬喰町二丁目 金幸堂 菊屋幸三郎謹製」とある。最終丁裏「御免 永福丸 常にもつべきくすり 一包 百文 一粒 十文」とあり、「○胸いたみ ○腹いたみ ○下^{くだ}りはら ○しふりはら ○嘔吐」「○酒の二日酔」「○せんそく」「○常に用ふれば音声さわやかになる」「○妊婦は用ふべからず」との記載が興味深い。

裏表紙裏部分には、「京都書林 寺町通松原上ル 菊屋七郎兵衛 同下ル 勝村治右衛門」「大坂書林 心齋橋南壱丁目 敦賀屋九兵衛 同通久太郎町 河内屋喜兵衛 同 博労町 河内屋茂兵衛」「東都書林 横山町壱丁目 出雲屋萬次郎 日本橋通壱丁目 須原屋茂兵衛」のほか、余白からみてあと4軒程度記載されていると推測できるが破損のため確認不能であった。

⑤地理科往来

『江戸往来』(大坂)の1本のみ所蔵が確認できた。『江戸往来(自遣往来)』(資料番号277/甲3)は、表紙が薄茶色(ページユ)で、横18.2cm 縦25.6cmの全15丁の資料である。表紙題は「江戸往来」であるが内題は「自遣往来」とあり、「じげんわうらい」と振り仮名がある。表紙は後付けの可能性が大きい。1丁表の右肩に「江戸往来」と書き入れがある。裏表紙裏に「字書蔵版目録 糸舎弘昭軒」として、4段8行にわたって32冊の書名が認められる。「合書童子訓」「寺子用文章宝鑑」等、子供用の教科書や「風月往来」「江戸往来」「商売往来」「庭訓往来」「訓点千字文」等の書名がみえ、大坂の糸屋市兵衛が、これらの往来物を多数出版していたことが知られる。最終丁15丁裏に絵の落書きもみえ、「大坂書肆 天神橋筋伏見両替町 糸屋市兵衛版」とある。

『江戸往来』は、寛文9(1669)年刊の大坂「柏原

屋与左衛門版」や京都「文台屋治郎兵衛版」が知られており、江戸の案内書として普及した地理科往来物である。江戸中期・後期そして明治初年に各地で作られた地誌型往来の編集方式や記事内容に多大な影響を及ぼしている。

⑥歴史科往来

『御家古状揃』(1843年大坂)、『頭書訓読古状揃精注鈔』(1843年大坂)、『今川帖』(1867年江戸)、『御成敗貞永式目』(1830年江戸)、『御成敗式目』の5本が確認された。

『頭書訓読古状揃精注鈔』(資料番号277/甲5イ)は、表紙が薄茶色(ベージュ)で題箋はなく、縦25.5cm 横17.8cmで、全53丁の資料である。表紙裏の中央に「頭書訓読古状揃精注鈔」、左に「浪華 文精堂蔵」とある。1丁裏の「序」には「天保十二年 浪華蔀徳風談」と著者名の記載を確認できる。53丁裏に「庭訓往来精注鈔 大本巻冊」「実語教童子教精注鈔 大本巻冊」と往来物の解説書の類の出版が宣伝され、「天保十四年 卯孟春癸卯大阪書林」と刊行の時期と刊行元が記載されている。裏表紙裏に「書肆」として江戸の書肆が6軒「須原屋茂兵衛」「山城屋佐兵衛」「須原屋伊八」「岡田屋嘉七」「出雲屋萬次郎」「山城屋清七」列挙され、「大阪 安堂寺内心齋橋 播磨屋理助版」と版元が確認できる。

⑦産業科往来

『農家専要増益百姓往来』(大坂)、『番匠往来』(1829年江戸)、『百姓往来』(1771年江戸)『百姓往来(新刻)』(1842年江戸)、『商売往来』(1862年江戸)、『御家商売往来並官名』(1825年江戸)、『商人買物独案内』(1833年江戸)、『農稼業事 前後編』等の11本が確認できた。

『御家商売往来並官名』(資料番号277/甲6)は、表紙が白色、横18.5cm 縦27.4cm、全20丁の資料である。表紙裏に「後家商売往来並官名」「東都書林 和泉栄堂梓」とあり、1丁表に「商売往来」とある。19丁裏(裏表紙裏)に「彫工 芝神明前 瀬戸村佐兵衛」「芝神明前 東都書林 和泉屋吉兵衛」とあり、江戸の出版であることが知られる。20丁表に「尊圓親王御真筆発行書目」として「和漢朗詠集」等14の書名が、21丁裏に「庭訓往来」「風月往来」等、往来物資料を含む26の書名が列挙され宣伝されている。

産業科往来として著名な『商売往来』(資料番号277/甲44)は、横17.0cm 縦25.4cmで、表紙は紺(褪せ

て薄青)、全11丁である。この資料には、裏表紙に手書きで「新瀉区本町通式番町 銅屋小路 倉田富三郎」と墨書きがみられ、使用者の痕跡が確認できる。裏表紙裏に「文久二壬戌年六月再板 江戸馬喰町二丁目 地本錦絵問屋 山口屋藤兵衛版」とあり、江戸の出版であることも確認できる

『百姓往来(新刻)』(資料番号810/甲18)は、表紙が薄茶色(ベージュ)で、横17.6cm 縦26.0cm、全12丁の資料である。表紙裏に「新刻百姓往来」の題名と絵がある。1丁表には、上段に田んぼ仕事の絵が描かれ、中央から下段に「百姓往来」と文章がある。12丁裏に「天保三年壬寅歳四月新刻」「江戸書林 本銀町川岸 山城屋新兵衛」とある。

また同じ書名であるが、『百姓往来』(資料番号277/甲42)は、形状や丁数、出版年が相違しており、別の資料である。横17.7cm 縦25.6cmで、表紙は紺色で破損が激しい。全15丁。2丁表まで絵が描かれている。2丁裏から上段に農機具の絵、中央から下段に「百姓往来」との題名と文章がはじまる。裏表紙裏に「明和八歳辛卯中秋吉」「此一冊ハ農家童子乃為に新に綴て版行して……」とある。「武江書肆 西村屋興八求板」とある。

『百姓往来』は、明和3(1766)年の江戸「鱗形屋孫兵衛版」や文化10(1813)年の大坂「藤屋善七版」等があり、農業型往来のなかで最も流布したものである。

⑧理数科往来

『算法地方指南』(1836年江戸)、『階梯算法』(1820年京都)、『算数』(1789年)、『和漢算法大成 九巻』(1695年大坂)、『算法通書 上中下』(1854年江戸)、『當世改算記』(1847年江戸)等18本もの資料が確認できた。

『當世改算記』(資料番号277/甲43)は、表紙が薄茶色(ベージュ)で、題箋はなく、縦22.5cm 横15.7cm、全48丁の資料である。序文に「弘化4年」(1847年)とあるのを参考に刊行年とした。表紙裏中央に「當世改算記」とあり、左下に「学而堂蔵 梓」とある。1丁表裏は「序」であるが、2丁表「當世改算記」と題名があり、続いて「仙臺 菊池宇太之丞長良 関 江都 金子左右平昌良遍」とある。裏表紙裏に書肆が10軒列挙されており、大坂は「大坂心齋橋横傳勞町 河内屋茂兵衛」「大坂心齋橋北久太郎町 河内屋喜兵衛」の2軒、江戸は「江戸日本橋通壺丁目 須原屋茂兵衛」「同 浅草茅町 同伊八」「同 日本橋通二

丁目 小林新兵衛」等8軒の記載がみられた。

『算法通書 上中下』(資料番号601/甲25)は、三冊本の資料で、表紙は黄色、題箋があり「算法通書 上」「算法通書 中」「算法通書 下」とそれぞれ記されている。縦18.8cm 横12.9cmで、上巻52丁、中巻49丁、下巻87丁である。上巻の表紙裏に「算法通書」の題名と左に「此書算盤を学ぶ法則を初め(以下略)」との内容説明があり、「江戸書肆 山田佐助 山崎屋清七 敬白」と出版元が掲載されている。また下巻の84丁裏に「買弘書肆 江戸両国西廣小路吉川町 山田佐助 同浅草福井町一丁目 山崎屋清七 彫工 江川仙太郎」とある。85~87丁には「長谷川先生門人著述目録」として「算法新書」「算法極形指南」等算法の書物が3丁にわたって列挙されている。裏表紙裏に「書林」として「京都 勝村治右衛門」「大坂 河内屋茂兵衛」がそれぞれ一軒、「江戸」は「須原屋伊八」「岡田屋嘉八」「山城屋佐兵衛」を含む11軒が記載されている。

理数科往来は比較的少ないといわれているが、新潟において多種多様な資料の所在が確認できたことは貴重な研究成果であり、特徴的な点であるといえるだろう。

⑨女子用往来

『女学則』(1762年江戸)、『女小学宝文庫』(江戸)、『慶応再刻女庭訓宝文庫』、『女誠』(1656年)、『女中庸宝文庫』(江戸)等7本の所蔵が確認された。

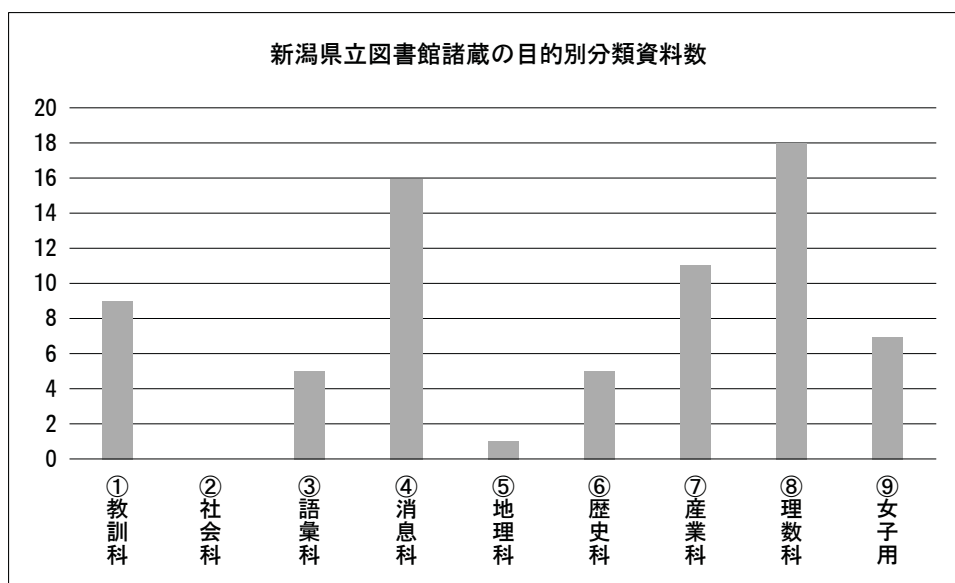
『慶応再刻女庭訓宝文庫』(資料番号277/甲10)は、

表紙は薄茶色(ベージュ)で横17.2cm 縦25.0cm、全47丁、出版地も刊行年も不明の資料である。表紙裏に「山栖堂主人著 女庭訓宝文庫 全 松林堂寿梓」とあり、1丁表に「女庭訓往来」「をんなていきんわうらい」と振り仮名がある。奥書はなく、47丁裏に「臘月二日 肥殿采女 藤内侍どのの返事」で終わっている。

『女庭訓往来』は、江戸中後期にかなりの普及をみた代表的な女子用往来で、女性としての知識・教養・心得の習得に重点をおいたものである。本書は奥書もないが、慶応に再刻された、数多くの類書のひとつであろう。

『女大学宝箱』(資料番号277/甲9)は、表紙は薄茶色(ベージュ)で題箋はなく、縦26.0cm 横18.0cm、全42丁の資料である。表紙と表紙裏に「女大学宝箱」と書名がある。角書に「女今川 一」~「女今川 十四」と14丁、「女大学 一」~「女大学 二十八」と28丁の記載があり、『女今川』と『女大学』が合冊され、通称として『女大学宝箱』とされていたと推測される。女子用往来物の著名な資料のひとつであり、『国書総目録』によれば、著者は「貝原益軒」とされている。

絵入りで親しみやすい体裁の書であり、一丁表右下に小さく「大澤貞房画」と絵師の名前も確認できる。裏表紙裏に「天保十三壬寅年初春」(1842年)の出版年と「東都書林 馬喰町四丁目 菊屋幸三郎蔵板」と版元の記載も見られる。本資料には「貝原益軒」の記載は確認できない。



4. まとめにかえて

以上に紹介してきたように新潟県立図書館には、総数で72本もの多種多様な近世期の往来物資料の所在が確認された。目的別の分類では、教訓科往来9本、社会科往来0本、語彙科往来5本、消息科往来16本、地理科往来1本、歴史科往来5本、産業科往来11本、理数科往来18本、女子用往来7本という結果であった。理数科往来が最も多いという調査結果は、特徴的であるといえ、産業科往来が比較的多く所蔵されていることも興味深い結果であった。

出版地域別の分類では、江戸が37本で最も多く、京都7本、大坂14本、名古屋1本、不明が13本という結果であった。なお、出版地域に着目した資料紹介と検討については別稿を予定している。

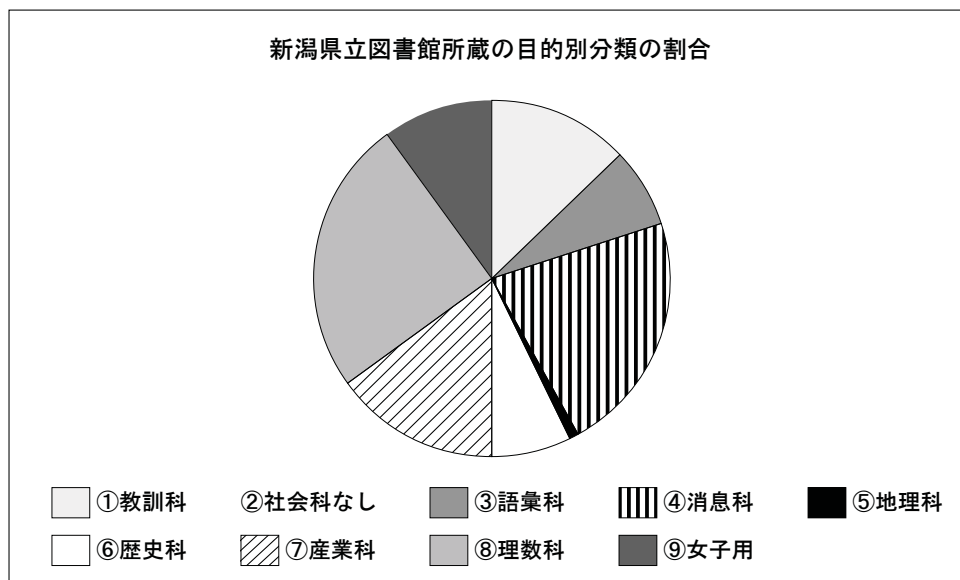
補足であるが、江戸時代近世期の資料だけでなく、明治期の往来物資料も所在し、『同板画入万国往来』『農業往来』『新撰尺読往来』『地方往来』『世界商売往来』等、多種多様な資料を確認した。新潟県立図書館には、紹介してきたように多数の往来物が所蔵されており、こうした文献の存在は、実際にこの地域で使用され活用されていたことの証であり、教育や文化的背景の一面が示されていると考えることができる。

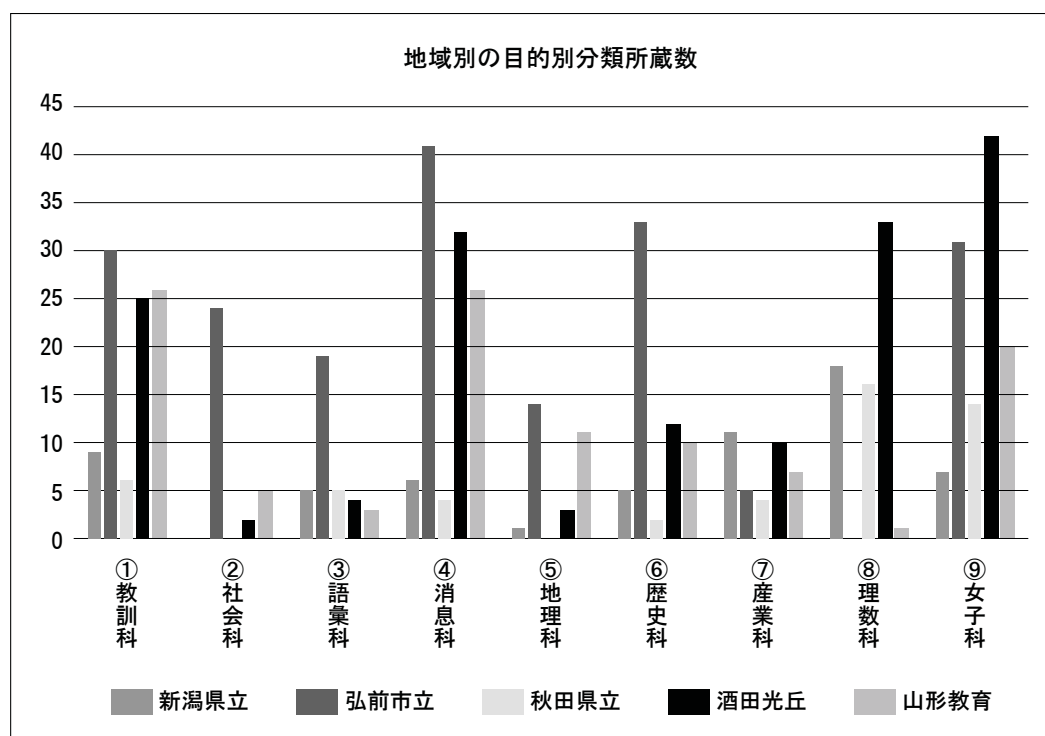
新潟長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往来物資料⁴⁾についてであるが、長岡では、目的別の分類で

は、消息科往来が6本、教訓科往来が2本、産業科往来が4本、理数科往来が2本、歴史科往来が2本、女子用往来が1本の所蔵が確認された。新潟県立図書館では、理数科往来の所蔵が多いことが特徴的であり、消息科と産業科が比較的多いといえるが、長岡でも、消息科と産業科が多い点では新潟と相似しているといえるだろう。

参考までに新潟県立図書館所蔵の往来物資料72本の目的別分類別の資料数をグラフで示してみた。加えて、東北地域の往来物資料調査結果と合わせて、地域ごとの目的別分類別の資料数について、比較できるようにグラフ化して提示してみた。棒グラフの縦軸は、往来物の所蔵数を示している。左から、新潟県立図書館、弘前市立図書館、秋田県立図書館、酒田光丘文庫と続き、最右が山形教育資料館の並びで示した。横軸の①～⑨の数字は、①教訓科、②社会科、③語彙科、④消息科、⑤地理科、⑥歴史科、⑦産業科、⑧理数科、⑨女子用といった目的別の分類を示している。それぞれの偏在状況が知られるであろう。

今後も往来物の資料調査を地道に続け、それぞれの地域における教育基盤や社会的な背景の解明や地域間の共通性や格差等の考察検討につなげてゆきたいと思う。





注

- 1) 拙稿「弘前市立図書館所蔵「往来物」について—関西文化との関係から—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第1輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2006年3月)、拙稿「弘前市立図書館蔵『都花月名所』考—近世期の京都観—」(『関西文化研究叢書別巻 往来物の研究 第3輯』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2007年3月)、拙稿「往来物の「女ことば」について」(『関西文化研究叢書 10巻』所収、武庫川女子大学関西文化研究センター、2008年11月)、拙稿「近世期における「御所ことば」の記載について—東京大学総合図書館蔵「往来物分類集成」からの報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第104号、2010年10月)、拙稿「国語資料としての『都花月名所』—江戸時代後期における漢字表記と振り仮名—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第106号、2011年10月)、拙稿「『南都名所記』についての一考察—山形県立博物館教育資料館所蔵本の資料性—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第110号、2013年10月)等参照。
- 2) 拙稿「岩手県立図書館所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第100号、2008年10月)、拙稿「八戸市立図書館 旧遠山家所蔵の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第102号、2009年10月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第103号、2010年3月)、拙稿「酒田市立光丘文庫所蔵の往来物資料—目的と出版地からの分類分析—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第107号、2012年3月)、拙稿「山形県立博物館教育資料館所蔵の往来物資料—目的別分類からの考察—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第108号、2012年10月)、拙稿「山形における江戸時代の書籍流通について—往来物資料の出版地域からの検討—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第109号、2013年3月)、拙稿「秋田県立図書館所蔵往来物の出版地域に関する一考察—弘前・酒田・山形との比較検討—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第111号、2014年3月)等参照。
- 3) 拙稿「富山県立公文書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第114号、2015年10月)、拙稿「高岡市立中央図書館所蔵の往来物資料について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第116号、2016年3月)参照。
- 4) 拙稿「長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往来物—横山家文書からの報告—」(『弘前大学教育学部研究紀要』第117号、2017年10月)、拙稿「新潟長岡「斯道館資料」の往来物について」(『弘前大学教育学部研究紀要』第118号、2018年3月)参照。
- 5) 分類については、石川松太郎著『往来物の成立と展開』(雄松堂、1988年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 解題編』(大空社、2001年)、石川松太郎・小泉吉永編著『往来物解題辞典 図版編』(大空社、2001年)を参考とした。

- 6) 長友千代治著『江戸時代の図書流通』(思文閣出版、2002年)、鈴木俊幸著『江戸時代の読書熱』(平凡社、2007年)、市川寛明・石山秀和著『江戸の学び』(河出書房新社、2006年)等参照。鈴木俊幸氏のご研究によれば「寛政期(1789~1801)を境にして、知と情報のありようが大きく変化していくように思われる。」(『江戸時代の読書熱』(平凡社、2007年)17頁参照)という。
- 7) 『国書総目録 第1~9巻』(岩波書店、1963~1976年)参照。
- 8) 『古典籍総合目録 第1~3巻』(岩波書店、1990年)参照。
- 9) 『新潟県立新潟図書館所蔵郷土資料解説目録(和装書の部)』(新潟県立図書館、1993年)、『新潟県立図書館

旧館分類図書分類目録19 和装書』(新潟県立図書館、1992年)、『新潟県立図書館所蔵和装書目録(郷土資料を除く)』(新潟県立図書館、2018年3月)参照。

【付記】

貴重な文献資料の閲覧や撮影、ならびに掲載許可をいただくなど、研究にご協力とご助力をいただいた、新潟県立図書館の関係者各位に心より感謝申し上げます。

本稿は、科学研究費助成事業 JSPS KAKENHI (基盤研究(C) 課題番号15K02555) の助成を受けた研究成果の一部です。

(2018. 7. 9 受理)